

市民のチカラ

市内で活躍する
さまざまな団体をご紹介します

手話サークルむさしの(昼) 手話サークルむさしの(夜)

手話歴 10 年ほどになる昼サークル会長の鍋島裕子さん(右)と夜サークル会長の宇野道子さん(左)。「昼と夜、活動スタイルは違っても目標は同じ」

奥深い「手話言語」の学びを通して 聴覚障害者の心に寄り添う



手話サークル
むさしの(夜)

最近、テレビの中継などで手話通訳者の姿を目にする機会が増えました。また、「誰一人取り残さない」社会を目指す国際的な取り組みとして広がるSDGs(持続可能な開発目標)の観点からも、聴覚障害者に対する理解がますます求められています。

武蔵野市には、手話を楽しむ学びながら、聞こえない方との交流や手話関係者による講演会などの活動を行う2つの「手話サークルむさしの」があります。市の手話講習会を修了したメンバーが1978年に「手話サークルむさしの」を設立。その後、会員が参加できる時間帯に合わせ昼の部と夜の部に分かれた。夜の部は一時活動休止期間を挟み、1988年に再設立され、現在に続いています。

「(昼) 会員は市の手話講習会を受講した後もさらに手話の学びを深めたい方が多い」と鍋島裕子さん。また、「(夜) は、プロの手話講師や障害者福祉に携わる方を講師に招いた講演会も多く、手話の技術習得だけでなく地域の『ろう運動』に関心のある会員も多

いです」と宇野道子さんは言います。

「コロナ禍にあっても、(夜) ではオンラインによる講演会を積極的に開催するなど、『ここで活動を止めてはいけない』という思いで向き合ってきた。2021年10月に開催した手話通訳士で亜細亜大学特任准教授の橋本一郎先生を招いたオンライン講演会は、会員のほか、見学者も参加し、パラアスリートの方々とも繋がる貴重な機会になりました」(宇野さん)

現在、2025年開催予定の聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」の東京大会招致の機運が高まり、「この開催を大きな目標にサークルの活動も広げていければ」(宇野さん)と意気込んでいます。

また、手話はハードルが高いと思われるがちですが、鍋島さんはこう語ります。「手話はとても豊かで奥深い言語。どこまで学んでも到達点はありませんが、だからこそもっと学びたいと思えるし、みんなで高め合っていけるのだと思います。少しでも関心のある方はぜひ一度見学に来てください」

手話サークルむさしの(昼) 手話サークルむさしの(夜)

(昼)(夜)共に、武蔵野市聴覚障害者協会と協力しながら活動。手話の学びを通して聴覚障害に関わる課題を考えるほか、手話関係者などの講師による講演会を年数回開催し、勉強会や見学会などを実施。(昼)は第1火曜日午後13時に障害者福祉センターで、(夜)は第1・3金曜日の夜に西久保コミュニティセンターで活動。今年度会員は(昼)22名、(夜)27名。



(昼)で行われている講座の様子



(夜)の例会の様子